

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう！主に癒され、整えられて」

<先週の説教から>

『イースター礼拝—主は復活されて、先に

ガリラヤに行かれた』 武田真治牧師

イザヤ書 60 : 1~6 マルコ福音書 16 : 1~8

レント（受難節）の時、与えられた聖書箇所は詩編 31 編でした。その6節は、イエス様が十字架で語られた7つの言葉の一つ『父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。』でした。そのイエス様が復活され、天に昇られたことによって、まさに“私たちの霊”はそのイエス様に「ゆだねる」ことが出来るようになったのだと言い得ます。それは、あの使徒言行録 7章で、ステファノが殉教していく際に『天が開いて、人の子（＝イエス様）が神の右に立っておられるのが見える』と言い、そして『主イエスよ、わたしの霊をお受けください。』と信頼を持ってゆだねていくことが出来た姿によく表れています。これはイエス様が“よみがえって”くださったからこそ、実現できる“信仰”ではないでしょうか？

そのイエス様の復活のようすについて、4つの福音書とも最初は、日曜日の朝、三人の女性たちがイエス様の葬られた墓に行ってみると、墓をふさいでいた大きな石が転がしてあり、墓の中を見ると空っぽの状態であったということから始まっています。その女性たちに使いの者（＝マルコ福音書では「白い長い衣を着た若者」）が現れて『あの方（＝イエス様）は復活なさって、ここにはおられない』と告げています。その後の展開は各福音書で異なって来るのですが、マタイとマルコではその使いの者はさらに『あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる』と告げています。どうして、イエス様はガリラヤへと急がれたのでしょうか。そこには何か特別な意味があるように思えるのですが。

様々な理由が考えられますが、イエス様が伝道を始められた場所が“ガリラヤ”であり、12人の弟子たちを招集されたのも“ガリラヤ”でした。その弟子たちにイエス様は『ガリラヤで会おう』と言われているのですから、今回の主の十字架と復活という出来事を踏まえて、もう一回、最初から今までのすべての歩みを歩み直そう。これまでのすべての出来

事やイエス様のその時々言葉や行動、奇跡等をもう一度十字架と復活を踏まえて見直してみよう、その時、イエス様が伝えようとしたメッセージや意味がはっきりと分かって来るからという“招き”ではなかったのでしょうか。このとらえ直しが、後に『福音書』を生んでいったのでした。

故にもう一つの理由として、今迄出会って来た人々、イエス様が死んでしまったと悲しんでいる人達に『私は復活し、生きているよ』と直接、会いに行かれたとも考えられます。このガリラヤから始まる、最出発の旅は40日弱かかって最後にはエルサレムに到達します。それを終えてイエス様は天に昇られ、そしてエルサレムで礼拝をしていた弟子たちとマリアさんや兄弟たちの上に“聖霊が降る＝ペンテコステ”が起るのです。復活後のこの“旅”は教会も生んだのです！

【今週の集会】

*聖書研究・祈禱会 I. 4月 19日（水）20：00

II. 4月 20日（木）10：30

聖書：ハイデルベルク信仰問答

祈禱主題：奏楽奉仕者を覚えて

担当者：（水）坂田 （木）北條

祈りに覚える人：小草さん 柿澤さん

【教勢報告】

主日礼拝 男 21 女 71 計 92

祈禱会 I. 男7 女3 計 10 II. 男1 女11 計 12

日曜学校 幼稚科 13 小中 24 計 37

ハンナの会（4月11日（火）） 男 2 女 7 計 9

【次週主日礼拝】 4月 23日（日）

聖書：ハガイ書 2：1～26

ヘブライ人への手紙 12：25～29

説教：「ヘブライ④ — 語っておられるのは

誰か？」 武田真治牧師

讃美歌：127(1)、32(1)、412(1と2)、

528(1と2と4)、37(1)

【次週当番表】

司式：茨木長老 奏楽：村上 礼拝：齋藤長老

献金：兼川 金刺 受付：金刺 坂田

会堂準備：大野 勝村 黒澤 西尾

看板：中村 週報：飯島 お花：飯島

【次週集会予定】

礼拝前：・求道者会 ・聖書輪読会

礼拝後：・礼拝/伝道/牧会/教育 各委員会 ・聖歌隊練習

2023年 4月 16日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>